

兵庫の林業

2021. 4 No. 296



もくじ

就任のご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
兵庫みどり公社と兵庫県農業会議との統合について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
森林大学校卒業生の進路等について・・・・・・・・・・・・・2
そまびと訪問③・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
令和3年度

林務課予算の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
豊かな森づくり課予算の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・5
治山課予算の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
鳥獣対策課予算の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
△普及だより▽

「森林環境学習会」市川町立瀬加小学校3年生と里山探検②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
森林ボランティア活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
狩猟免許試験のご案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
技能講習会等のご案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
県産木材を利用した木造住宅支援施設のご案内・・・・・・・・・・・・・・・・・11
兵庫の巨樹・巨木⑳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
（裏表紙）
題字・・・・・・・・・・・・・兵庫県知事 井戸敏三氏

表紙の写真

丹波市山南町慧日寺にて、ヒノキの大径木をふり縄で登りながら檜皮採取を行う「原皮師（もとかわし）」の大野浩二氏です。

大野氏は、三十八年間、檜皮葺建物を支え、出雲大社や厳島神社社殿などに納めてこられました。

丹波地域のヒノキは木に粘りがあり、粘りの強い良質な檜皮が採れることから丹波黒背皮と呼ばれ丹波ブランドとして重宝されています。

昨年十二月に「伝統建築工匠の技」としてユネスコ無形文化遺産に登録され、全国社寺等屋根工事技術保存会の会長を務め、全国から集まる若い後継者たちの指導や地元久下地区のまちづくり活動にも熱心に取り組まれています。

森林参事就任の「あいつ」

塩谷 嘉宏



胸に宍粟産の木の名札を付けた市の職員さんが森の香りを漂わせ癒やしてくれます。ここは人工林率が低い「観光の島あわじ」。恥ずかしいかな、我が家は鉄骨の家です。その猛省から、和室を宍粟杉のフローリングに衣替えをし、仕事を終えたら仰向けで温かな幸せを感じながら不思議な森林浴。

昨年度末、「ひょうご農林水産ビジョン2030」の改定にあわせ、県産材2割増産の目標を掲げました。またビジョンでも木材の利用拡大を施策のトップに位置づけています。これまでも林業施策は木材市場価格の変動に大きく影響を受けてきましたが、林業が持続しなければ公益的機能を持つ森林も持続しません。そのためには、県民への木材に対する価値を

深め、森林所有者や林業関係者の利益を高めていくことが私たちの最重要課題と考えています。

県内の森林資源が成熟し、間伐中心から主伐再造林への展開が求められてきます。戦後に植えた宝の循環利用をめざし、関係者が営々と路網整備や林業機械化を進め、川下側も木材加工技術開発をはじめ、大型製材工場や木質バイオマス発電所の稼働等が進み、他に引けをとらない水準までできています。

また、近年の風水害にも強く、多様で健全な森林づくりも進みつつあります。目指すべき森林・林業の姿、方向性は明確です。あとは、それを誰が行動をおこし、実践していくのか？が問題です。行政もがんじがらめの障害が多いと嘆いているだけではダメです。

ビジョンや指針の改正が形だけのものにならず、強い目的意識と柔らかな頭、そして専門的な視点からの普及（コーディネート）によって知恵を出し合い「人を結びつけ、木も森も山人も見る」そのような令和の挑戦としたいので、今後とも一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

兵庫みどり公社と兵庫県農業会議との統合について

公益社団法人 ひょうご農林機構

1 統合の概要

公益社団法人兵庫みどり公社は、令和三年四月一日に一般社団法人兵庫県農業会議と統合し、名称を「公益社団法人ひょうご農林機構」に変更しました。

この度の統合により、新たに農村づくり支援等を実施します。

これは、「地域みんなが住み続けたいむらづくり」、「地域みんながいきいきする農業の担い手づくり」、「地域みんなで農地をいきいき活用する」をキャッチフレーズに、農業の担い手育成や農地の有効活用、里山林整備等を一体的に実施して、市町の地域づくりを支援するものです。

統合後も、分取造林事業や災害に強い森づくり、市町の森林環境譲与税活用事業の受託などは、引き続き実施していきます。

これらにより、農山村の活性化を図ってまいります。

2 組織の概要

今回の統合により、本社の部を新設・再編するなど、次のとおり変更しました。

- 本社
 - ・経営企画部
 - （旧企画経営部）
 - ・農村・担い手部（新設）
 - ・農地対策部（再編）
 - ・森林緑化部
- 事務所
 - ・農地管理事務所
 - ・兵庫楽農生活センター
 - ・県南事務所
 - （旧西播磨事務所）
 - ・県北事務所
 - ・兵庫県立三木山森林公園管理事務所

所在地の変更はありませんが、本社の農業関係の一部組織は、当面の間、旧一般社団法人兵庫県農業会議の事務所を使用します。

県立森林大学校卒業生の進路等について

森林経営や森林林業に関わる人材を幅広く育成する専修学校兵庫県立森林大学校では、去る三月十九日、第3回卒業式を行い、第3期生十七名が社会人として巣立っていきました。

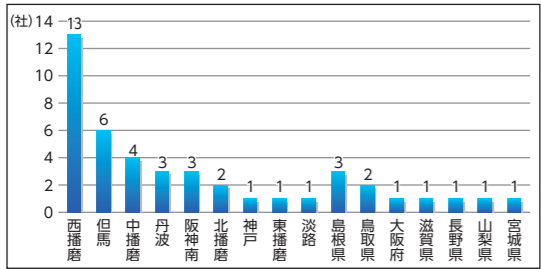
卒業生の進路等については次のとおりです。

○求人状況

四十四社、七十名の求人があり、求人倍率は約4倍です。地域別内訳は次の図のとおりで、県下各地、県外からも複数の求人があります。

○進路

卒業生十七名の進路については下の表のとおりです。林業事業体並びに木材関係はもちろんのこと、公務員や測量、造園の分野に進む者もいます。卒業生の今後の活躍を期待しています。



進路	人数
森林組合	4
測量関係	2
林業事業体	1
木材関係	1
造園関係	1
公務員	2
団体職員	1
その他	5
計	17

○学外就業体験と就職

本校では、就業イメージを掴み、実社会への適応能力向上を図るため、6週間の学外就業体験を実施しています。第1期生、3期生で学外就業体験の受け入れ先企業に就職を内定させた学生は、計十五名となっています。

さらに、学生の就職支援として、平成三十年度から職業紹介事業に取り組んでおり、本校が事業者と学生の雇用関係の成立を斡旋しています。

公開講座について

当校研修科では、森林や林業・木材を取り巻く事柄に興味や関心を持っていただくため、一般の方を対象とした講座を実施しています。詳細は県HPに順次掲載します。興味をお持ちの方は是非ご参加ください。



そまびと訪問 ③

今回は、令和元年秋、黄綬褒章を受章されました清瀬八郎さんをご紹介します。

平成2年から林業に取り組み、兵庫県指導林家の理事や塩田生産森林組合の組合長として地域の林業を牽引してこられました。若い頃は、食品会社の営業として各地を飛び回っておられました。42歳から林業に携わってこられました。

青年時代は、村山の下刈りが苦痛で、山仕事はお好きではなかったそうですが、30歳の頃、マツタケを採るために山に入り、枝を落とすしながら進むと山が明るくなって、それが嬉しくて、週末は持山へ通うようになられたそうです。手入れをした森林が目に見えて綺麗になっていくことに達成感を覚え、林業一本でやっていくことを決意し、会社へ辞表を出したところ、上司に「山仕事をやる人が減っているのに、林業を始めるなんて」と止められ、一年間迷われたそうです。それでも諦めきれずに、林業の世界に飛び込まれ、始めはチェーンソーと下刈り機で出来る仕事なら何でもされたそうです。

仕事を始めた当初、持山には作業道は無く、小型の林内作業車と

ラジキで間伐を行っておられました。選木や伐採に時間がかかり、残し木に傷がつくことを何とかしたいと思っていたところ、県の薦めもあり、積極的に作業道を整備し、いち早く高性能林業機械を導入し、新たな間伐手法として注目されていた列状間伐に取り組みされました。どうしてそのような思い切ったことが出来たのかお聞きすると、「どうしたらラク出来るか考えたら、道をつけて機械を使うことになった。結果、木を傷めず、所有者にお金も返せるようになった。伐って・出して・売って全部が面白い」とにっこり笑われました。お話しをお聞きし、体への負担を減らし、安全な作業と効率を両立させる工夫を続けておられる姿に感銘を受けました。

温厚なお人柄、旺盛な研究心と行動力からこれからも発揮していただきたいと思います。ますますお元気で活躍されることをお祈り致します。



高性能林業機械を使用している伐採現場にて

林務課主幹（林業普及担当）
（前森林林業技術センター）倉橋

令和3年度 林務課予算の概要

県内では大型製材工場やバイオマス発電燃料による木材需要の増加により、原木生産量は平成25年度の24万m³から令和元年度の44万m³へと大きく増加しています。

このような状況に対応し、必要な需要量を持続的に供給していくため、搬出間伐の促進とともに主伐による原木供給と再生林による資源循環型林業の確立に向けた取組を進めます。

また、市町による森林環境譲与税を活用した非経済林の間伐や「新たな森林管理システム」が円滑に進むよう「ひょうご森づくりサポートセンター」等を通じた市町支援を展開します。

県産木材利用促進については、「兵庫県県産木材の利用促進に関する条例」に基づき、川上から川下までの関係者の連携と協働により、建築用材と燃料用材の2本柱でさらなる利用拡大に取り組みます。

凡例

- 緊急：森林林業緊急整備事業（県事業名）
- ④：令和2年度県補正予算措置分
- 【新】：新規事業
- 【拡】：拡充事業
- ※金額は令和3年度県当初予算ベース

1 多面的機能の発揮に向けた森林整備

(1) 多様な森林の整備

人工林のうち、育成単層林については、気象災害等に配慮しつつ、間伐等を推進するとともに、地形や地質等により条件の悪い森林については、針広混交林化や天然林へと誘導する等、多様で健全な森林の整備を図る。

また、資源循環型林業の実現に向けて、主伐後の再生林を推進するため、主伐から植林までを一連の作業として効率的に実施する、主伐・再生林の低コストモデルの検討を進める。



主伐・再生林地

造林事業	1,171,000千円
（うち花粉発生源対策）	41,600千円
造林事業（R2当初→R3繰越）	531,973千円
（うち花粉発生源対策）	99,154千円
造林事業（R2経済対策補正）	④366,000千円
緊急間伐（R2経済対策補正）	④158,487千円
重要水源林機能高度化事業	22,000千円
資源循環林造成パイロット事業	7,200千円
針葉樹林と広葉樹林の混交整備事業	326,200千円

(2) 施業集約化の促進

森林施業の集約化を促進するため、森林経営計画の作成や森林境界の明確化等を支援する。

森林整備地域活動支援事業	59,430千円
--------------	----------

(3) 生産基盤の整備

ひょうご農林水産ビジョン2030の中間目標（令和7年度）達成に向け、令和7年度には、製材工場等に必要316千m³/年の原木と木質バイオマス発電向けの燃料用として見込まれる211千m³/年を

合わせた527千m³/年の原木を低コストで安定的に供給できるよう、森林施業の団地化、林内路網の整備及び機械化などを支援する。



搬出間伐

緊急 林内路網整備

④163,000千円の内数（TPP関連）

森林資源活用システム整備事業 61,826千円（一部④）

県産木材利用促進特別融資事業

（高性能林業機械等導入資金）100,000千円

緊急 高性能林業機械等導入

④163,000千円の内数（TPP関連）

2 林業技術の普及

林業普及指導員による林業技術の普及指導活動や指導林家等・山村リーダー研修等を通じて、地域リーダーや後継者を育成する。

林業技術普及費 4,712千円

2 林業の担い手の育成

(1) 次代の森林林業を担う人材の育成

県立森林大学校において森林経営から森林セラピーや獣害対策に至るまで、森林に関わる人材を幅広く育成する。

また、即戦力となる人材に対して給付金を交付する。

兵庫県立森林大学校運営費（教務手当含む） 50,214千円

緑の青年就業準備給付金 42,637千円

(2) 林業事業者の育成・確保

収益性の高い低コスト林業経営モデルの確立に向け、県立森林大学校研修科において林業機械コースや森林経営コース、木材利用コースなど高度なカリキュラムを実施し、チェーンソー伐採現場における労働安全の確保、ドローンやQGISといった林業ICT化の推進、川下を意識した経営を行える林業事業者の育成等を図る。

兵庫県立森林大学校運営費（教務手当含む） 50,214千円（再掲）

林業労働力育成対策事業 1,148千円



伐倒練習機による安全研修

(3) 森林組合の育成

森林組合の事業活動を強化し、中核的担い手として育成するため、利用事業の展開や経営改善など自主的な取り組みへの支援、ガバナンス・コンプライアンス研修の実施、合併等の促進による経営基盤と役員研修や専門家派遣等による執行体制の強化を図る。

森林組合等経営基盤強化対策事業 2,226千円

森林組合機能強化資金貸付 850,000千円

(4) 林業・木材産業の経営基盤の強化

林業・木材産業事業者に対して、低利・無利子の資金を融通することにより、林業及び木材産業の健全な発展、木材生産及び流通の合理化の促進を図る。

林業・木材産業改善資金貸付金 150,000千円

木材産業等高度化推進資金 780,007千円

県産木材利用促進特別融資事業

（製材用原木の取扱に係る運転資金） 100,000千円（再掲）

3 県産木材の供給体制の整備と利用拡大

(1) 県産木材の供給体制の整備

品質向上や供給体制の確立に向けた木材乾燥機など木材加工流通施設の整備により、県産木材の品質向上や供給体制の整備を図る。

林業構造改善事業 424,773千円

(2) 県産木材の利用拡大

① 公共・民間施設の木造・木質化の推進

展示効果が見込める公共施設や民間施設での木造化、木質化を進めるとともに、公共土木工事での県産木材の利用を進める。

ひょうご木の街木質化推進事業 12,000千円

非住宅木造建築物研修会 500千円

② 県産木材を使用した住宅の建設促進

「ひょうご木の匠」登録工務店による県産木材を利用した魅力的な木造住宅の設計及び工務店グループによる県民向け住宅展示・相談会の開催を支援するとともに、本県独自の長期固定で低利な融資制度の活用により、県産木材の利用意義のPRと県産木造住宅の建築促進を図る。



県産木材を活用した木造住宅

【拡】「ひょうごの木の家」設計支援事業 45,000千円

「ひょうごの木の家」建築促進事業 2,000千円

【拡】県産木材利用木造住宅特別融資事業

県産木材使用割合 50%以上→30%以上に緩和（R3～） 26,338,420千円

③ 県産木材を使用した木製品の普及

県産木材を使用した製品の取扱事業者を「ひょうご木製品マイスター」として登録し、木製品活用事例集等により広く県民に紹介することで、県産木製品の普及・導入促進に繋げ、県産木材の利用拡大を図る。

【新】ひょうご木製品マイスター登録制度 1,980千円

④ 県産木材の利用意識の醸成

住宅建築を検討している県民等を対象に、山での伐採作業から製材所での加工の様子、このような県産木材を使った木造住宅等の現地見学を通じて、県産木材の利用意識の醸成を図る。

現地見学会の開催 1,320千円

⑤ 木質バイオマスの利用促進

未利用間伐材等を仕分け・ストックする山土場整備、購入資金等に対して支援



バイオマス発電所

バイオマスヤード整備事業4,500千円

県産木材利用促進特別融資事業

（バイオマス燃料用木材の取扱に係る運転資金）

100,000千円（再掲）

4 森林環境譲与税を活用した森づくりの推進

平成31年度から導入された森林環境譲与税を活用し、市町が行う森林整備等を支援する。

(1) ひょうご森づくりサポートセンターの設置

県がひょうご森づくりサポートセンターを設置し、森林経営管理法制定を受けて市町が実施する森林経営管理法業務や森林整備事業業務、木材利用業務を支援する技術者の派遣等により、市町業務を総合的に支援する。

【拡】ひょうご森づくりサポートセンター設置事業 53,298千円

(2) 森林クラウドを活用した森林情報の高度化

令和2年度に導入した森林クラウドシステムの適正な運用を行うとともに、同システムに搭載する森林情報の精度向上を図り、円滑な森林整備の実施につなげる。

森林クラウド活用情報高度化事業 56,105千円

(3) 県立森林大学校を活用した市町職員養成講座の実施

市町職員の専門能力向上を目的とした養成講座（森林林業の概要と実務、木材利用の実務、森林GIS等）を実施する。



市町職員養成講座

森林大学校を活用した市町職員養成講座の実施 7,148千円

(4) 林業災害防止研修の実施

急増する急傾斜地等の条件不利地での立木伐倒作業等を安全に行う技術指導ができるリーダー人材を育成する。

伐倒練習機等を活用した林業災害防止研修の実施 3,672千円

(5) リモートセンシング技術者養成研修の実施

森林整備の急激な増加に対応するため、ドローン等を活用したリモートセンシング技術習得による測量業務を安全かつ円滑に実施するリーダー人材を育成する。

リモートセンシング技術者養成研修の実施 5,100千円

(6) 県産広葉樹苗木生産者育成研修の実施

県産広葉樹苗木需要の増加に対応するため、生産者の確保及び技術継承を目的に、苗木生産技術習得に係る研修会を実施する。

【新】県産広葉樹苗木生産者育成研修の実施 976千円

(7) ひょうごの森づくり・木づかい普及啓発

県民の森林環境税への理解を深めるため、森林環境税の趣旨や森林の公益的機能、木材利用の意義、市町の森林環境譲与税を使った取組等を紹介するフェアを開催する。

森づくり・木づかいフェア開催 1,000千円

令和3年度 林務課 主な事業 当初予算額	33,753,771千円（対前年度比102.5%）
（+繰越R2→R3）	34,934,543千円（対前年度比102.9%）

令和3年度 豊かな森づくり課 予算の概要

森林の持つ多面的機能の高度発揮に加え、本来の経済林としての再生を進めるため、「公的関与による森林管理の徹底」「多様な主体による森づくり活動の推進」を基本方針とする「新ひょうごの森づくり・第2期対策（平成24～令和3年度）」を推進しています。

また、緑の保全及び再生を社会全体で支え、県民総参加で取り組む仕組みとして、平成18年度から県民緑税を活用した「災害に強い森づくり」に取り組み、森林の防災機能の強化を図っています。近年の記録的豪雨や台風による災害甚大化、頻発化など依然として災害リスクは高く、今後も危険渓流等での対策が必要なことから、県民緑税を令和3年度から5年間延長し、第4期対策を実施します。

さらに、森林の保全・管理、森林病虫害被害対策に取り組み、県民の安全・安心な暮らしを守る「ひょうごの豊かな森づくり」を推進します。

1 新ひょうごの森づくり・第2期対策の推進

(1) 森林管理100%作戦

間伐が必要な60年生以下のスギ・ヒノキ人工林について、国の公共造林事業による間伐及び作業道開設の補助残額を県・市町が連携して公的負担を行い、森林管理の徹底を図る。

・「森林管理100%作戦」推進事業 74,100千円
[間伐：5,000ha 作業道：70km]

(2) 里山林の再生

集落周辺の里山林の生活環境や景観の改良のため、地域住民等による森林整備活動に対し、資機材の購入等の支援を行い、健全な里山林への誘導を図る。

(森林・山村多面的機能発揮対策交付金と一体的に実施)

・住民参画型里山林再生事業[280ha] 8,223千円

(3) 県民総参加の森づくり推進

森林への関心や保全の大切さを県民へ普及し、さらに森林ボランティアの次代のリーダー等の養成により、県民総参加の森づくりを推進する。

・「ひょうご森のまつり」の開催 1,000千円

・森林ボランティア・リーダー養成講座の開催 1,000千円

(4) 企業の森づくりの推進

企業・団体等が社会貢献活動の一環として所有者に代わって行う森林保全活動を支援することにより、多様な担い手による森づくりを推進する。

・企業・団体等の年間活動計画等の策定に係る指導等 1,362千円

(5) 森林とふれあう公園の運営

森林ボランティア等の県民の参画と協働を基本理念として運営する三木山森林公園、ふるさとの森公園において、森づくり活動や自然観察のプログラム等の実施により、身近に自然と触れあう場を提供する。

・三木山森林公園管理運営事業 107,626千円

・ふるさとの森公園管理運営事業[6公園] 171,209千円

2 県有環境林の管理

乱開発の抑制等を図るために取得し、良好な地域環境を保全してきた山林について、森林の公益的機能に着目し、県有環境林として適切な管理を行う。

・県有環境林管理事業[14地区2,451ha] 54,738千円

3 災害に強い森づくり・第4期対策の推進

超過課税である県民緑税を活用し、危険渓流域の森林の土留工の設置や、野生動物との棲み分けを図るバッファゾーン等の設置等の森林整備を推進する。

(1) 県民緑税充当事業

・緊急防災林整備 669,047千円

[斜面対策：900ha、渓流対策：調査箇所20箇所、森林整備17箇所]



土留工の設置と植生回復



簡易流木止め施設

・(拡) 針葉樹林と広葉樹林の混交整備 326,200千円

[計画調査設計 175ha、作業道開設 198ha、

広葉樹植栽244ha]

(拡) 対象森林 適期の間伐ができず気象災(風倒木・雪害)や土砂災害の恐れが高い人工林

※ 下限面積 15ha (令和2年度：20ha)

・里山防災林整備 576,096千円

[基本計画調査220ha、整備200ha]

・野生動物共生林整備 359,444千円

[基本計画調査430ha、森林整備421ha]

・(拡) 住民参画型森林整備 28,000千円

[森林整備20ha]

(拡) 補助額 定額2,700千円(令和2年度：2,400千円)

・都市山防災林整備 100,800千円

[基本計画調査40ha、森林整備80ha]

(2) 広葉樹林化促進パイロット事業

奥地林など収益性が低く伐採が進まない高齢人工林を小面積で伐採し、跡地への広葉樹植栽に加え、植栽地の維持管理(下刈り、防護柵補修、補植)を支援し、山地災害を防止するとともに野生動物の生息環境に適した広葉樹林へ誘導する。

・広葉樹林化促進パイロット事業 10,030千円

[更新伐17ha、作業道開設1.7km等]

4 森林の保全・管理

(1) 保安林の指定等

治山事業施行予定地等の保安林指定を進めるとともに、公益的機能の維持・増進に資する保安林の森林施業の確保、標識設置や伐採等の行為制限により保安林の適正な管理、保全を図る。

・保安林等整備管理費 8,719千円

(2) 適正な開発行為への誘導

森林が持つ公益的機能を確保するため、地域森林計画対象森林における許可制度の適正な運用により、森林の保全を図る。

・林地開発許可制度実施費 2,030千円

(3) 森林の保全巡視

保安林等の森林において、無許可の伐採や開発行為等の早期発見、林野火災の予防啓発等を目的として「森づくり指導巡視員」を県民局・県民センターに配置し、森林の保全、啓発を行う。

・新ひょうごの森指導巡視事業 9,038千円



土砂流出防備・保健保安林(神戸市中央区)



ナラ枯れ被害対策(粘着シート設置(三木市))

5 森林病虫害被害対策

(1) 松くい虫被害対策

① 被害対策の概要

保安林等の公益的機能の高い松林や地域経済上重要な松林を防除区域と定め、特別防除、地上散布、樹幹注入等の予防対策と、伐倒駆除や造林事業(衛生伐)の駆除対策を組み合わせ、松林機能の保全を図る。

② 環境に配慮した駆除対策

農薬使用を軽減するため、被害木の搬出が可能な箇所については、伐採後に搬出した後、破砕での殺虫による特別伐倒駆除を推進する(対象区域：高度公益機能森林)。

③ 抵抗性マツの植栽

被害を受けにくい松林を造成するため、抵抗性マツ『ひょうご元気松』10万本植栽事業を継続して実施する。

・予防対策(特別防除、地上散布、樹幹注入) 21,247千円

・駆除対策(伐倒駆除、特別伐倒駆除) 25,076千円

・ひょうご元気松10万本植栽事業 1,100千円

・森林病虫害防除予防推進費(薬剤防除自然環境等影響調査ほか) 674千円

(2) ナラ枯れ対策

毎年のナラ枯れ調査で新たに被害発生した市町を「被害先端地市町」に指定(被害が2年連続で100㎡未満になるまで断続指定)し、その指定市町のなかで、倒木や落枝による人的な二次災害が予想される森林、保安林等防災機能の高度発揮を求められる森林、景観の悪化等が懸念される森林を「重点対策区域」に指定して重点的な被害対策を図る。

・その他法定病虫害駆除事業(ナラ枯れ被害対策) 39,214千円

(伐倒駆除(くん蒸)、噴霧剤処理(粘着剤塗布)、粘着シート)

(3) 被害木の景観対策

景観の保全が必要な箇所において、過年度枯れの松枯れ・ナラ枯れ被害木を伐倒処理する。

・県単独松くい虫被害等景観対策事業 6,860千円

令和3年度 豊かな森づくり課 主な事業 当初予算額
18,520,200千円 (対前年度比103.3%)

令和3年度 鳥獣対策課
(野生鳥獣対策関連) 予算の概要

野生動物被害防止総合対策の推進

シカ・イノシシの捕獲拡大により農林業被害は全体的には減少傾向にあります。被害が増加している地域もあるため、地域の実情に応じた野生動物の①個体数管理、②被害管理、③生息地管理を総合的・計画的に進めます。

1 シカ・イノシシ被害対策の推進

被害が大きく狩猟者が少ない地域等での有害捕獲の強化、狩猟期間中の捕獲の推進、集落ぐるみの被害対策に対する支援を実施します。

(1) 鳥獣被害集落ローラー作戦等 559,370千円

農業被害を防止するため、獣害防護柵の設置や野生動物の隠れ場所となる茂みの伐採（獣害ベルト緊急整備）を支援します。

集落に派遣する獣害専門事業者（鳥獣対策サポーター）の活動経費の支援や、市町職員の対策技術・知識向上のための実践研修を実施します。

(2) 捕獲の拡大 602,446千円

シカ4.6万頭、イノシシ2.5万頭の捕獲達成に向け、市町による有害捕獲に加え、県が編成した捕獲専門家チームによる代行捕獲や、狩猟期の捕獲報償金の充実、ICT活用等による捕獲を強化します。

(3) シカ丸ごと1頭活用大作戦 172,612千円

捕獲したシカを食肉など地域資源として有効活用を図るため、処理加工施設等の整備、捕獲個体の処理加工施設への搬入・回収支援、冷凍車等の導入を支援します。

ひょうごジビエの日（毎月6（ロク＝鹿）日、16（シシ＝4×4）日、第4火（シカ）曜日）の普及啓発により、食肉・ペットフード等へのシカ肉の需要拡大を図ります。

さらに、販売ロットの確保とコスト削減を図るため、県内の処理加工施設のネットワーク化によ



【文鹿祭（R3.3.23）の様相】

るシカ肉、皮、角の広域的な集荷・流通を支援します。

加えて、小学生へのジビエ普及のため、メダカのコタロー劇団による公演や小学生への学校給食へのシカ肉提供による試食機会を創出します。

2 ツキノワグマ出没被害対策強化 11,161千円

生息数が増加しているツキノワグマの集落への出没や人身事故の発生を防止するため、不要果樹の除去（獣害ベルト緊急整備）、集落周辺部での有害捕獲の強化、追い払い等を実施します。

3 サル被害対策の強化 1,792千円

追い払い効果がない加害個体の捕獲を強化するとともに、市町でのサル群の動向追跡による出没情報の提供等を行うサル監視員の設置を支援します。

4 カワウ被害対策の強化 7,471千円

アユ食害を与えているカワウの個体数管理のため、擬卵置換等の繁殖抑制、営巣地や飛来地（銃撃可能なシューティングポイント）での捕獲等を支援します。

また、銃での捕獲不可地域での地獄オリ等での捕獲試験や、タカ等による追い払い試験等を実施します。

5 狩猟後継者の確保・育成 1,649,865千円

狩猟への関心を高める狩猟体験会やフォーラムの開催、初心者向けの狩猟への理解を深める講習会等の開催により、狩猟者の確保を進めます。

さらに、新たな有害捕獲従事者向けの狩猟マイスター育成スクール等を実施します。

また、狩猟者の確保や、安全意識の高い狩猟者の育成、経験・技量や獣種に応じた捕獲技術の習得拠点となる「県立総合射撃場（仮称）」（三木市吉川町）の整備を進めます。



【県立総合射撃場（仮称）イメージ】

令和3年度 鳥獣対策課予算額
・野生動物保護管理費 3,095,098千円
(対前年度比 96.7%)



※イラスト（シカ）：兵庫県森林動物研究センター提供

令和3年度 治山課
予算の概要

近年、局地的豪雨が増加傾向にあり、土砂・流木災害が激甚化・頻発化していることから、「第4次山地防災・土砂災害対策計画」（R3～7）を策定し、人家等に直接被害を与える恐れのある溪流、人工林率の高い谷筋や0次谷の存在する山腹斜面のうち流木災害や崩壊の恐れのある箇所に対して、治山ダム等の整備を進める。

あわせて過密化した保安林での森林整備を行い、森林の持つ多面的機能の維持向上を図る。

ソフト対策では、山地災害危険地区の情報発信や山地防災教室の開催など、県民の避難行動に役立つ情報を提供する。また、地域での防災マップ作成等の減災支援対策を行い、地域の防災力の向上を図り、総合的な山地防災・減災対策を推進する。



流木捕捉機能を持つひょうご式治山ダム（神戸市北区）

林道事業については、「第3期ひょうご林内路網1,000km整備プラン」に基づき、森林整備や木材生産の基盤となる森林基幹道及び林業専用道の整備を推進する。また、効率的な木材搬出等を推進するため、幹線林道沿線において路網拠点施設の整備を行う。

1 治山対策の推進

(1) 「第4次山地防災・土砂災害対策計画」の着実な推進 R3～R7年度

区分	着手箇所数（箇所）
人家等保全対策	365
流木・土砂流防止対策	220
計	585

(2) 治山施設の維持管理と長寿命化対策

令和2年度に策定した個別施設計画に基づき、既設治山ダムの増厚または嵩上げなど治山施設の機能強化・長寿命化対策を進める。

(3) 「新ひょうごの森づくり」第2期計画の推進

森林の過密化により林床植生が消滅し、表土が流出する等、機能が低下した保安林を対象に、本数調整伐等の森林整備を推進する。

【治山事業費】

公共治山事業費 3,841,000千円

県単独治山事業費	265,000千円
県単独緊急防災事業費	1,552,500千円
合計	5,658,500千円
(別途2年度補正予算)	1,958,300千円)
[防災・減災、国土強靱化のための5カ年加速化対策] 活用	

2 林道整備の促進

(1) 幹線林道の開設

林内路網の骨格となる森林基幹道2路線（須留ヶ峰線、千ヶ峰・三国岳線）の開設を計画的に進める。

(2) 支線林道及び路網拠点整備

林道から森林作業道等を接続する支線林道となる林業専用道「能栖線」の調査に着手するとともに、路網拠点林道の開設や高性能林業機械が効率的に作業できる作業用地を設置する路網拠点を4箇所を整備する。



既設林道を繋ぐ支線林道（能栖線）

(3) 林道の機能強化

車両の安全な通行を確保するため、巡視や安全点検をはじめ、個別施設計画に基づく施設の改良や点検、及び路面の舗装、法面の改良工事等の維持管理を計画的に推進する。

(4) 市町営林道への支援

災害発生時の迅速な対応や林道技術者の育成を目指し、市町職員を対象とした林道施設災害復旧や長寿命化対策の研修を開催する。

【林道事業費】

公共林道事業費	621,322千円
県単独林道事業費	340,400千円
県単独林道事業費（管理費）	53,368千円
林道施設災害復旧事業費	140,000千円
合計	1,155,090千円
(別途2年度補正)	109,000千円)

3 里山防災林整備（災害に強い森づくり）

令和3年度より第4期対策（R3～7）に着手し、集落裏山の危険木除去等の森林整備や丸太柵工等の簡易防災施設を整備する。併せて、防災マップ作成等の減災支援対策により地域の防災力の向上を図る。（予算額等は豊かな森づくり課予算の概要参照）

令和3年度 治山課 主な事業 当初予算額
6,813,590千円(対前年度比 79.2%)
(別途 令和2年度補正 2,067,300千円)

「森林環境学習会」市川町立瀨加小学校

3年生と里山探検

中播磨県民センター 姫路農林水産振興事務所



1 はじめに

当事務所では、次代を担う子ども達が森林・林業に親しみ、その必要性や素晴らしさを学べる場を提供するため、林業普及指導員が講師となり、森林環境教育活動に取り組んでいます。

今回は、令和2年度に市川町立瀨加小学校3年生（14名）を対象に開催した「森林環境学習会」の活動内容について紹介します。

2 経緯

コロナ禍の今だからこそ、子ども達に自然とふれあえる機会を持たせてやりたいという地域の大人達や小学校の先生方の熱い思いに応えたい、地域のお役に立ちたいと考え引き受けました。

3 取組内容

【開催日】11月16日（月）

【場所】緊急防災林整備「溪流対策」間伐作業中の森林（市川町下牛尾字忍辱奥山）

【ねらい】「秋の空気を吸い込み

自然とふれあう」、「森のはたらきについて知る」、「山のしごとに関心を抱く」これらを五感で感じてもらいたい。

(1) 自然観察会！

緊急防災林整備地までの約800mの山里を、秋の植物（花や実）観察やボードウォッチング、獣の痕跡（糞や獣道）を発見しながら歩きました。



秋なのにホオジロがさえずっているよ！

(2) 森のはたらきを知ろう！

緊急防災林整備地で秋空の下、「森のはたらき」や「山のしごと」について、紙芝居を使って授業を行いました。



秋空の下、紙芝居による授業

(3) チェーンソー伐倒実演！

北はりま森林組合さんの協力のもと、スギ伐倒作業の実演を見学しました。木が倒れる時の音や匂い、倒れた時の地響き等、迫力を子ども達に体感してもらうことができました。

その後、班に分かれて年輪を数えたり、輪尺を使って木の太さを測ったりして森林ができるまでの長い年月が想像できました。



ヘルメットを被って見学 迫力満点！

4 子供たちの反応

後日、子ども達一人一人から感想文をもらいました。「生き物や植物のことを教えてもらえて良かった」、「森林のことが良く分かった」、「山がもっと好きになった」等、感じたことを素直に表現してくれていました。

5 おわりに

怪我もなく、元気に山を下りていく子ども達の姿と里山の風景を見て、今回の目的は、概ね達成できたと感じることができました。今後も地域や学校と連携し、継続した取組にしていきたいと考えています。

最後に、開催にあたりご尽力いただいた市川町外三ヶ市町共有財産事務組合及び瀨加小学校、市川町地域振興課の関係者、担当者の皆様に心から感謝いたします。



みんなで記念撮影！

森林ボランティア活動

いもくやさん

代表 上村 哲三

「いもくやさん」発足の経緯

三田市のニュータウンにある「中央公園」。その中に咲く「ササユリ」が年々減少し、2010年に咲いた花数はわずか数株。この希少なササユリを保護・育成するには、「生育環境の整備」下草刈りと間伐」が不可欠という事で、同年11月に中央公園の森を守る会「いもくやさん」を発足させました。



「いもくやさん」とは、「森林」の文字を分解すると「木が五つ」→五木。集団という意味で屋五木屋さん→「いもくやさん」と命名した次第です。

生物多様性の保全活動

中央公園は16.3haあり、行政の手が届きにくい場所から重点的に除間伐を開始。10年たった今では、鬱蒼と暗かった保護区にササユリが10倍以上に増え、公園周辺が明るい景観になりました。また、野生動物の生態調査を目的に、定点観測カメラを年々増設し、動物の生態を撮影・記録してきました。

令和2年11月に、記録をまとめた2冊目の小冊子を刊行し、中央公園と周辺環境の生物多様性保全にどのような効果を上げたか、認知いただける内容になっていると自負しています。

イベント開催・学校との協働

近年、関学三田キャンパス、県立三田祥雲館高校にも野生動物生態調査のカメラを設置して、学生との連携調査を進めています。

更に毎年、地域小学校の「野外学習会」支援に加え、市民参加の「自然観察会」、児童向けの「ふれあいカブトムシドーム」などを開催しており、今後も我が街の真ん中に「野生動植物」が息づく『豊かな里山』がある事と、「生物多様性保全」の大切さを伝える活動を続けていく所存です。



令和3年度狩猟免許試験のご案内

兵庫県では、今年度も次のとおり狩猟免許試験を実施します。多くの方が免許を取得されますよう、ご案内いたします。

【狩猟免許とは】

狩猟期間中にシカやイノシシなどの狩猟鳥獣を捕獲するのに必要な資格です。

また、県や市町の許可を受けて実施する有害鳥獣捕獲にも原則必要です。

【狩猟の楽しみと公益性】

狩猟は、ハンティングや料理を楽しむという魅力のほか、農林業被害を与える野生動物の生息頭数を適正に管理するという公益性も兼ね備えています。

【免許の種類】

- ・ 網猟（主に鳥類）
- ・ わな猟（獣類のみ）
- ・ 第一種銃猟（装薬銃、空気銃）
- ・ 第二種銃猟（空気銃）



【試験の日程と場所】

1回目

◆ 申込期間 5月31日（月）～6月18日（金）

◆ 知識・適性・技能試験日及び場所

- 7月17日（土） 姫路市
- 7月23日（金・祝） 神戸市
- 8月1日（日） 洲本市※
- 8月1日（日） 養父市※

初心者狩猟講習会のご案内

狩猟免許試験を受験される方を対象に、一般社団法人兵庫県猟友会が次の日程で、知識・技能に関する講習会を実施する予定です。

神戸市開催

- 6月6日（日）、6月12日（土）、6月26日（土）、7月5日（月）、8月7日（土）、8月11日（水）

姫路市開催

- 6月20日（日）

【お問い合わせ先】

- （一社）兵庫県猟友会
- （〇七八）三六一八二七

2021年度の技能講習会等のご案内

林業・木材製造業労働災害防止協会 兵庫県支部

- はじめに
当支部では、林業・木材製造業の労働災害防止のため、労働安全衛生法に定められている林業・木材製造業の作業の従事に必要な技能講習会等を次のとおり開催しますので、関係する方々の受講をお願いいたします。
- 実施計画
- お問い合わせ先・申込先
〒650-0012
神戸市中央区北長狭通5-5-18
林業・木材製造業労働災害防止協会 兵庫県支部
(兵庫県木材業協同組合連合会内)
☎078-371-0607

2021年度(令和3年度) 技能講習会等実施計画(予定)

区分	名称	実施年月日	場所
技能講習	木材加工用機械作業主任者	2021年 7月 6日 ～ 7日	姫路市市民会館 (姫路市総社本町)
	はい作業主任者	2021年 8月 3日 ～ 4日	
特別教育	伐木等の業務に係る特別教育 (チェーンソー作業従事者特別教育)	2021年 6月16日 ～ 18日	<学科> 中はりま森林組合 会議室 (神崎郡神河町)
		2021年 7月14日 ～ 16日	
		2021年 9月 8日 ～ 10日	<実技> 中はりま森林組合 製材工場内 他 (神崎郡神河町)
		2021年11月10日 ～ 12日	
特別教育	車両系木材伐出機械等 運転業務特別教育 3教育一括講習 〔伐木等機械 走行集材機械 簡易架線集材装置(架線集材機械) 〔一般募集は若干名〕	<学科> 2021年 8月18日 ～ 20日	中はりま森林組合 会議室 (神崎郡神河町)
		<実技> 2021年 9月 1日 ～ 3日	中はりま森林組合 製材工場内 (神崎郡神河町)
安全衛生教育	刈払機取扱作業 安全衛生教育	2021年 6月30日	中はりま森林組合 会議室及び土場 (神崎郡神河町)
		2021年 7月 9日	
		2021年 8月25日	
		2021年10月14日	

※この日程は予定であり、今後、新型コロナウイルス感染症対策、そのほかの理由により、日程及び会場等を変更する場合があります。
※講習会のご案内は開催日1ヶ月前を目処にウェブサイトなどで行います。
HPアドレス：http://www1.odn.ne.jp/hyogomokuren/rinsaihou/

県産木材を利用した木造住宅支援施策のご案内

兵庫県林務課

- ①兵庫県産木材利用木造住宅特別融資(県産木造住宅ローン)
県産木材を一定量以上使用した木造住宅を新築・増改築・既存住宅長寿命化、およびリフォームをされる方がご利用できる長期固定低金利の住宅ローンです。
《制度概要(新築の場合)》
●融資利率
0・8%固定(26年目以降返済分の利率は1・8%固定)
※掲載利率は2021年9月30日融資実行分まで適用
●融資限度額
木材利用割合に応じて1200万円～2300万円
(その他条件を満たすと最大3200万円)
●返済期間
最大35年
(金融機関によって対応が異なります)
※新築とリフォームでは条件が異なります。リフォームの概要・条件等については左記問い合わせ先にてご確認ください。
- ②県産木材利用拡大キャンペーン事業
新型コロナウイルス感染症の影響により住宅着工戸数の減少が見込まれることから、県産木材の需要喚起を図るため、県産木材を利用した住宅の新築・リフォームを支援します。
《制度概要》
●対象者
兵庫県内に事業所又は事務所を置いている建設業者
●対象経費
・県産木材を30%以上利用した住宅の新築にかかる工事費
・内装に県産木材を30㎡以上利用するリフォーム工事費
●助成額(1件あたり)
〔新築〕
・30%以上50%未満…20万円
・50%以上80%未満…30万円
・80%以上…50万円
〔リフォーム〕
・30㎡以上…10万円
●申請期間
令和3年4月1日(木)～
令和4年2月18日(金)

③「ひょうごの木の家」設計支援事業

県産木材を利用し、木材の魅力を見せた住宅設計を支援します。

《制度概要》

●対象者

ひょうご木の匠登録工務店
(兵庫県産木材を使用した木造住宅の建築の担い手として県に登録された工務店)

●対象経費

県産木材を30%以上利用した住宅であって、県産木材の構造材や内装材を見せる木造住宅の設計にかかる経費

●助成額(1件あたり)

30万円

●申請期間

令和3年4月1日(木)～
令和4年2月28日(月)

《問い合わせ先》

- ①県産木造住宅ローン
兵庫県農政環境部農林水産局林務課木材利用班
TEL…078-3362-9224
FAX…078-3362-3954
- ②両事業担当窓口
ひょうご森づくりサポートセンター
TEL…078-371-0607
FAX…078-371-1766

株式会社 グリーン興産
〒671-4141
兵庫県赤松市一宮町東河内1003
TEL 0790(72)1553 FAX 0790(72)2327

GREENKOUSAN

— 営業品目 —
森林部門 …… 素材生産・森林整備・危険木伐採
土木部門 …… 公共土木・一般土木工事
緑化部門 …… 公共緑化工事・一般造園工事
建築部門 …… 新築・リフォーム・エクステリア工事
E-mail: info@greenkousan.co.jp
URL: http://www.greenkousan.co.jp

森林整備・造園・法面・土木・設計施工管理
緑と笑顔が私たちの基本です

株式会社 西村風晃園

豊岡本社 〒688-0051 兵庫県豊岡市九日市上町846-1
TEL(0796)23-5611 FAX(0796)22-4529
URL [http://fuukouen.com] E-mail [seifuu@skyblue.ocn.ne.jp]

・姫路本店
・神戸営業所

あなたの町の森づくり・木材利用・木育をサポートします。
ひょうご森づくりサポートセンター

森林環境譲与税や森林経営管理法に関すること、県産材や地域産材の利活用に関することなど、何でもお気軽にご相談下さい。

■神戸市中央区北長狭通 5-5-18 ひょうご森づくりサポートセンター

森林整備：☎078-381-5425 (兵庫県森林組合連合会内)
木材利用等：☎078-371-0607 (兵庫県木材業協同組合連合会内)
URL：www.hyogomori.jp/sc

JForest 兵庫県森林組合連合会
Hyogo Prefectural Federations of Forest Owners Cooperative Associations



ドローンレーザー測量で点群作成

測量は空

〒679-4125
兵庫県たつの市龍野町末政132番地1
TEL:0791-63-0851 FAX:0791-63-0852
E-mail:sinkou-semh1.117.ne.jp
www.sinkousokuryou.com

(株)新光測量設計

エムシー緑化の 林業用薬剤

ススキ ササ地に 松枯防止樹幹注入剤

フレック® 粒剤10 **マツガード**®

発売元 **正和商事株式会社**

大阪府中央区道修町1丁目3番4号 〒541-0045
TEL 06 (6203) 4541 FAX 06 (6203) 4347

“治山・林道測量” は経験と実績のある

株式会社 **石原測量コンサルタント**

国土交通省登録第24891号
県知事許可(般-27)第461481号

本社 兵庫県宍粟市山崎町 船元250-1
Tel (0790) 63-1377
Fax (0790) 63-1398
営業所 兵庫県姫路市夢前町助野1078-3
Tel (079) 336-1418




Husqvarna

■550XP/XPG-Mark II

AutoTune

■排気量：50.1cm³ ■出力：2.8KW ■質量：5.3/5.5kg(XPG)

本当の価値が分かる方へ!

安全と作業効率を追求し続けるハスクバーナは、プロが認めるチェーンソーの最高峰です。革新的な技術を融合し、これまで以上の加速とトルクで他に類のない鋸断能力を発揮します。新登場550XP-Mark II、ぜひお試しください。

愛林興業株式会社

本社 姫路市飾磨区恵美酒294-3 TEL (079) 234-8181(代)
神崎店 神崎郡神河町吉富1409-2 TEL (0790) 32-0570番
但馬店 養父市上野1357 TEL (079) 664-2101番

緑を育み水をつくる水源林造成事業

分収林方式により、水源林造成事業を進めています
対象地は無立木地など、公益的機能の低下した水源かん養保安林です

国立研究開発法人森林研究・整備機構
森林整備センター近畿北陸整備局

神戸水源林整備事務所 TEL (078) 362-5800
FAX (078) 362-5802

兵庫県水源林造林協議会 TEL (078) 351-3341
〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5番18号
(兵庫県林業会館内)



災害のない安全で安心な社会

- 治山、林道、造林事業の推進
- 山地防災・土砂災害対策計画

一般社団法人 **兵庫県治山林道協会**

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5-18
TEL:078-371-0210 FAX:078-371-6632

HP [兵庫県治山林道協会](http://www.kyokai.or.jp)




ふるさとの木「兵庫県産木材」おすすめします

当会では、公共施設や公共土木の工事、地域型住宅グリーン化事業、「ひょうごの木の家」設計支援事業等で使用される兵庫県産木材の証明、兵庫県産木材利用木造住宅特別融資制度の申請に必要な県産木材(ひょうご県産認証木材製品)使用住宅証明書の発行を行っています。兵庫県産木材は、当会に設置している県産木材供給部会の部会員が積極的に供給しております。詳しくは、当会のホームページをご覧ください。

兵庫県木材業協同組合連合会

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5番18号 兵庫県林業会館3階
Tel: 078-371-0607 Fax: 078-371-7662 URL: <http://www1.odn.ne.jp/hyogomokuren/>

自己流で使っていませんか?

チェーンソー・刈払機の安全講習のご案内
講習を受けて、正しい使い方を学びましょう!

伐木等の業務に係る特別教育 (チェーンソー作業従事者特別教育)	刈払機取扱作業 安全衛生教育
2021.6.16~18(予定) 中はりま森林組合 会議室 他 2021.7.14~16(予定) (神崎郡神河町寺前)	2021.6.30(予定) 中はりま森林組合 会議室 他 2021.7.9(予定) (神崎郡神河町寺前)

※今後、新型コロナウイルス感染症対策、そのほかの理由により、日程及び会場等を変更する場合があります

林業・木材製造業労働災害防止協会 兵庫県支部

緑の募金にご協力をお願いいたします

いつも緑の募金にご協力いただき、ありがとうございます。
緑の募金は、地域の緑化活動や森林整備活動、森林環境学習活動などに活用しています。
ご協力いただける場合は、次の方法をお願いいたします。



ご寄附の方法

- 郵便振込 (手数料協会負担)
専用の払込取扱票をお送りしますので、兵庫県緑化推進協会に直接お問い合わせください。
- 銀行振込 (手数料必要)
口座：三井住友銀行 兵庫県庁出張所
普通 3198438 公益社団法人 兵庫県緑化推進協会

公益社団法人 兵庫県緑化推進協会

〒650-0012 神戸市中央区北長狭通5丁目5番18号
TEL 078 (341) 4070 FAX 078 (341) 4071
HP <https://hyogo-green.net/>

兵庫県緑化推進協会 検索

兵庫の巨樹・巨木 (37)

④慶野松原の紹介

今回は淡路島が誇る「慶野松原」を紹介する。コロナ禍の中、何かと憂鬱な日々ですが、密を避けて一度慶野松原を訪れていただきたい。

一九二八年に国の名勝に指定され淡路島の西側、播磨灘に面した場所であり、瀬戸内海で唯一の白砂青松のマツ林です。およそ5万本のクロマツ林が海岸沿いに二・五kmわたり広がっている。歴史的にも「万葉集」に「飼飯の海の 庭好くあらし 刈薦の乱れ出づ見ゆ海人の釣舟」と柿本人麻呂も詠んでいる。



駐車場からマツ林のシャワーをくぐり、500m程歩くと、「根上りの松」に到達する。

マツ林の歩道には、瓦の産業の地、南あわじ市ならではの瓦を使った歩道が表現されている。名づけてプロポーズの歩道。風雨に耐え生き延びた老若松林、樹形は右往左往樹形で



瓦に思い思いの愛の心を表現して瓦を左の柵に吊り下げている。マツ林内の愛の瓦歩道を歩く。



根上りのマツに行く途中の老松。周りの若松が元気で枝を覆っています。老松は光不足で枝枯れしています。

苦しんだ姿で今に生きている。若いカップルが愛を語りあいながら歩くのもロマンチックではないか。マツの大きさは環境省資料によると最大幹周四・8m 樹高一二mです。



目の前に巨木のクロマツが砂に大きな足の指を入れて立っている根上り松です。



根上りの根の写真です。何故この様に根が出たのでしょうか。=松は自分で上下できません、根元の砂が風雨で洗い流されて砂がなくなり根元が露出して根が見えるようになったのです。



松の根は土が軟らかい時は根が真っ直ぐ入る直根性が判ります。大地に根を張り力強く生きている根上りのマツです。

この他にも多くの老松が若松の勢いに負け下枝が枯れている。全国的にも少なくなったマツ林。このマツ林の維持管理には落ち葉拾いなどの作業に加え松くい虫の防除も必要である。守ることは大変である。「お疲れさんです」と感謝申し上げます。



樹形が一番良い松



広大なマツ林の落ち葉を集め持ち出されています。

樹木医
樹木医
樹木医

橋本光政
宮田和男
塩見晋一